

# 黒田精工株式会社

(証券コード：7726)

## IR説明会資料

### <目次>

1. 会社概要、事業内容
2. 2023年3月期 連結決算概要
3. 2024年3月期 通期連結業績予想・配当予想

2023年6月7日

# 1. 会社概要 事業内容

社名	黒田精工株式会社
代表者	代表取締役社長 黒田浩史
本社	神奈川県川崎市幸区
創業	1925年
上場市場	東京証券取引所 スタンダード市場
資本金	1,920百万円
従業員数	連結 614 (374) 名
主要事業	駆動システム事業 金型システム事業 機工計測システム事業

沿革 <90年以上に渡る精密の歴史と信頼>	
<b>創業期</b>	1925 日本最初の專業ゲ-ジメ-カとして創業 1935 ブロックゲージの製造販売を開始
<b>技術基盤の確立</b>	1946 精密プレス金型 製造販売開始 1953 平面研削盤 製造販売開始 1961 東京証券取引所に上場 1962 ボールねじ 製造販売開始
<b>技術開発と新事業</b>	1978 型内積層金型「FASTEC」製造販売開始 1987 超精密鏡面加工機スーパーポリシャー製造販売開始 1991 超精密表面形状測定装置ナノメトロ製造販売開始
<b>事業再編 Global化</b>	2005 車載 HEV 用モ-タコア量産開始 2008 金型内自動接着積層システム「Glue FASTEC」開発 2012 JENA TECグループを買収 2014 伊 Euro Group と業務提携、米テネシー州に合弁会社 2016 Glue FASTECコア 量産車車載用モ-タへの採用 2019 かずさアカデミア工場新棟竣工 自動化ライン整備 2022 中国 無錫隆盛新能源科技有限公司と業務提携

## 経営理念



精密技術を通じて世界の  
産業高度化をサポートする

常に新しいものに挑戦し  
新しい価値を創造する

## 行動理念



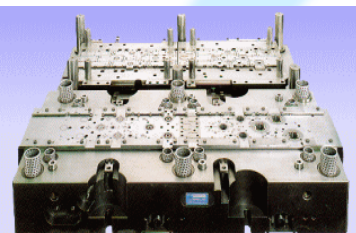
ボールねじ



ボールねじ  
アクチュエータ



精密積層  
プレス金型



モーターコア



ゲージ



ハイドロリックツール



ポリシング  
マシーン



精密測定システム



平面研削盤

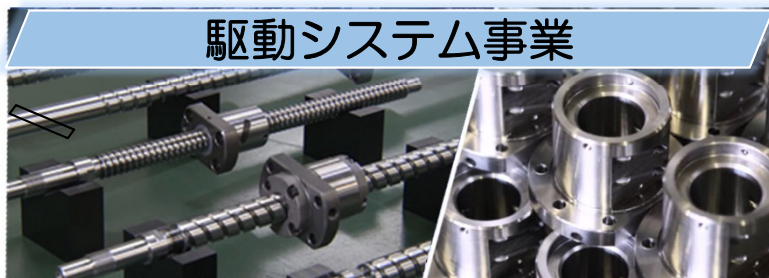


## 精密加工

## 精密測定

3つの事業の複合力で産業の高度化をサポート

### 駆動システム事業



研削ボールねじ  
転造ボールねじ  
BSアクチュエーター  
サポートユニット



かずさアカデミア工場



旭工場

### 金型システム事業



精密積層プレス金型 (FASTEC)  
Glue / Laser FASTECシステム  
樹脂固着システム (MAGPREX)  
モーターコア (車載用/家電用)



長野工場

### 機工計測システム事業



工作機械 (平面研削盤、ポリシングマシーン)  
要素機器 (ゲージ、ハイドロリックツール)  
精密測定システム  
ソリューション提案



富津工場

# Global Network

Jenaer Gewindetechnik GmbH (独)



無錫隆盛新能源科技有限公司  
(中) 提携先



韓国黒田精工株式会社 (韓)



Eurotranciatura USA LLC (米) 合併会社



KURODA JENA TEC Inc. (米)



Euro MISI Laminations  
(中) 提携先



本社 (日本)



平湖黒田精工有限公司 (中)



Eurotranciatura Mexico SA de CV  
(メキシコ) 提携先



KURODA Precision Industries(M)  
SDN BHD (マレーシア)

EUROGROUP S.P.A.  
(伊) 提携先



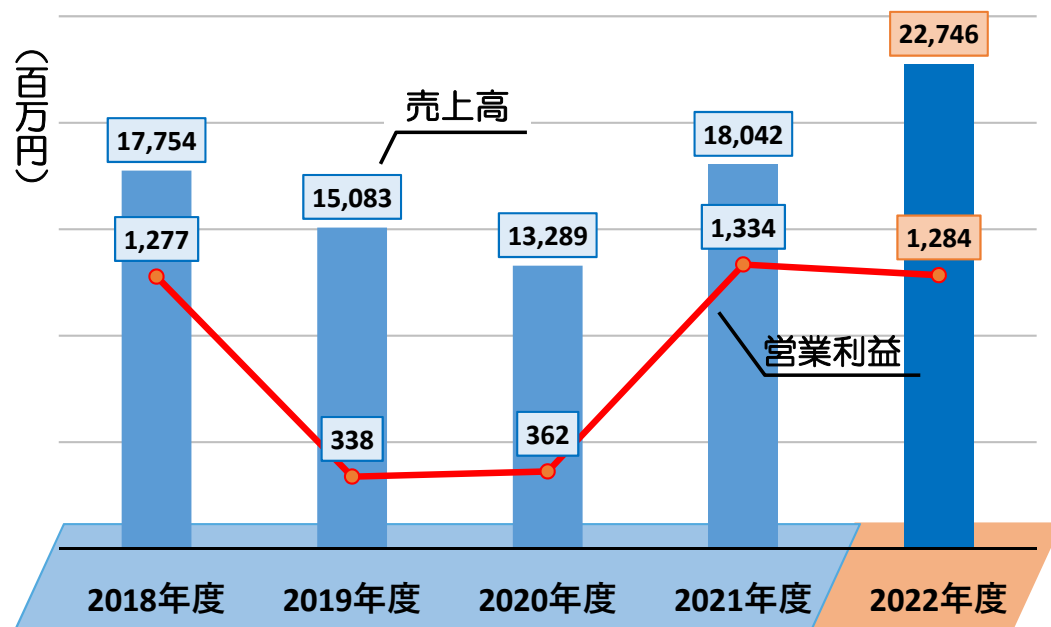
【国内関連会社】  
クロダイインターナショナル(株)  
(株)ゲージング  
日本金型産業(株)

【国内販売ネットワーク】  
本社営業部  
名古屋支店、大阪支店、京都営業所、  
太田営業所、西東京営業所、長野営業所

## 2. 2023年3月期 連結決算概要

# 2023年3月期 連結決算概要

(単位：百万円)	前年同期 (2022年3月期)	期初業績予想 (22年5月13日付)	2022年度 (2023年3月期)	増減 (前年同期比)	増減 (期初予想比)
受注高	19,989	-	21,958	+1,969	-
売上高	18,042	20,000	22,746	+4,703	+2,746
営業利益	1,334	1,350	1,284	△50	△66
経常利益	1,437	1,250	1,533	+95	+283
親会社株主に帰属 する当期純利益	563	700	906	+342	+206



- ◆ 半導体・液晶関連装置市場向け駆動システム商品の受注が調整局面を迎えたものの、自動車向け金型システム商品の需要が好調に推移し、受注高は前年同期比で大幅に増加。
- ◆ 売上高は金型システム商品の売上増が大きく寄与し大幅増収。一方利益面では、物流費や電力コストの増加、ドイツ現法の工場移転に伴う一時的な減収と移転コスト発生により、営業利益は前年同期比△50百万円の減益となったが、経常利益は為替差益やロイヤリティ収入増加により増益。
- ◆ 特別損益において政策保有株式の売却益96百万円、固定資産減損損失76百万円等を計上し、当期純利益は906百万円と大幅な増益。



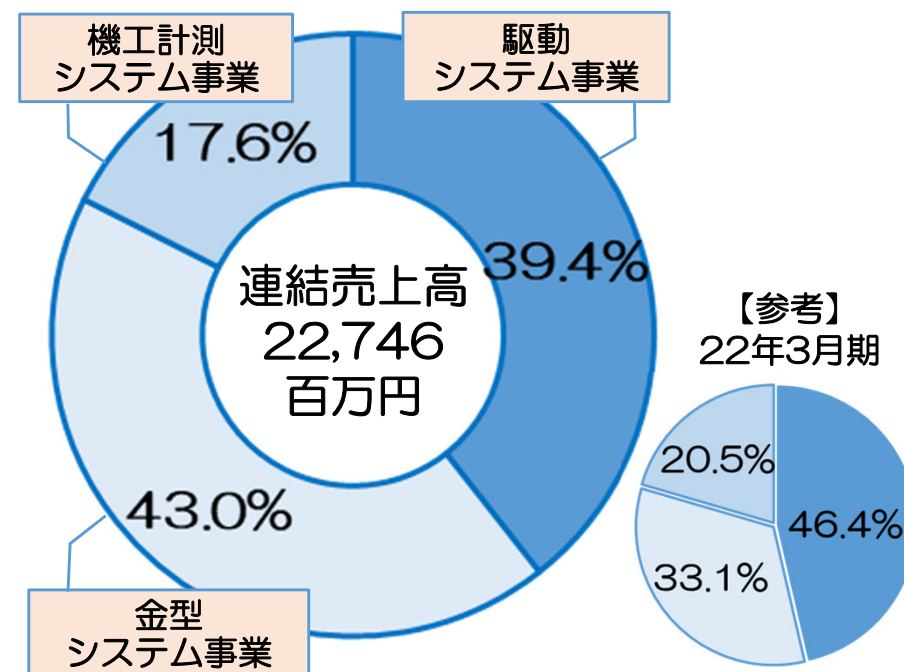
# セグメント別概要

単位：百万円	受注高 (前年同期比増減)	売上高 (前年同期比増減)	営業損益 (前年同期比増減)
駆動システム事業	7,275 (Δ2,728)	8,966 (+595)	1,030 (Δ107)
金型システム事業	10,645 (+4,680)	9,798 (+3,813)	366 (+92)
機工計測システム事業	4,055 (+22)	3,999 (+299)	Δ81 (Δ29)

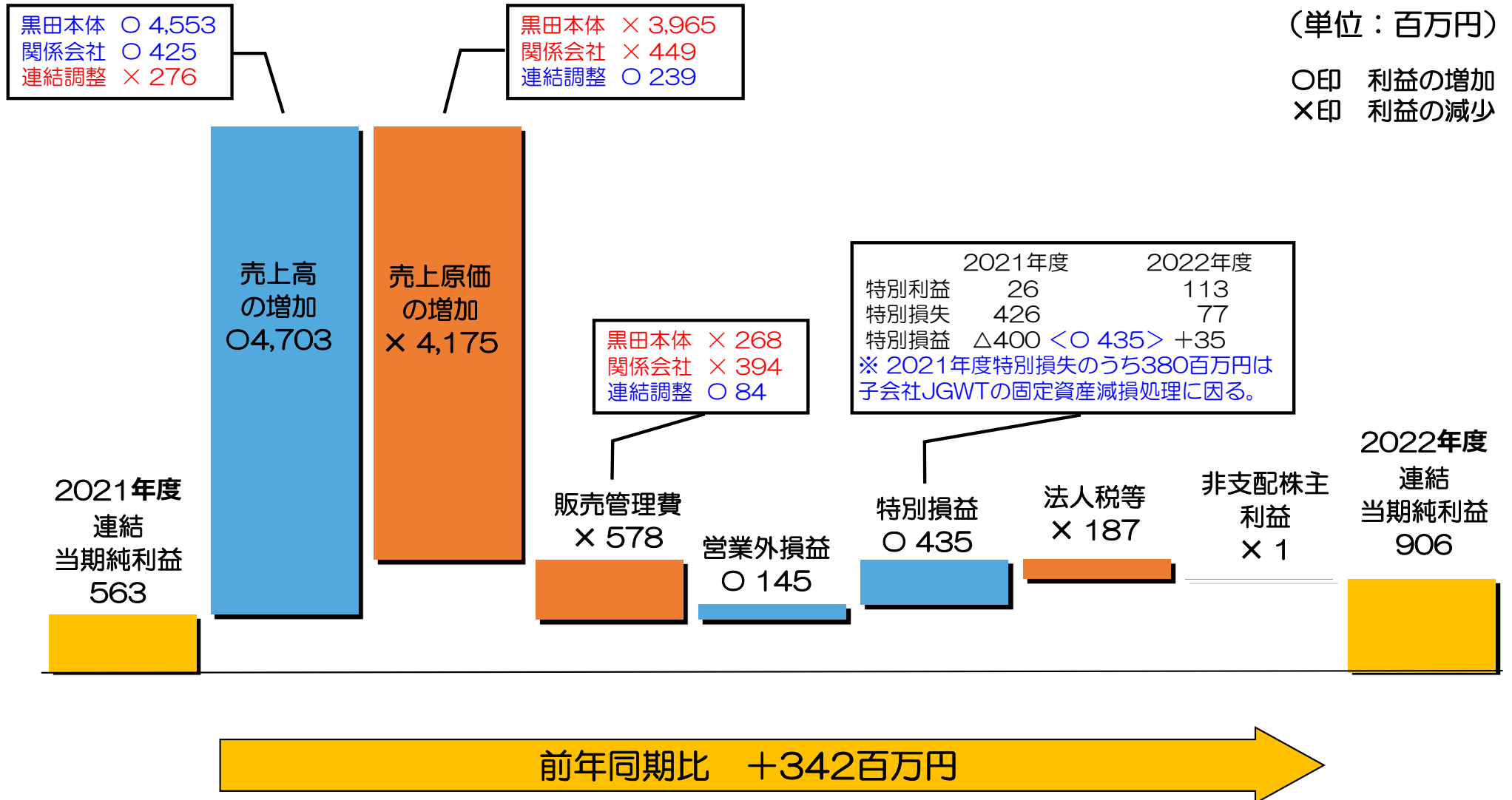
◆駆動：主要顧客の半導体/液晶関連装置向け市場が第3Q以降に生産調整の局面を迎え受注が減少する一方、売上高は潤沢な受注残と生産体制増強により高水準を維持。ただし海外子会社移転に伴う一時費用等により前年同期比では増収減益。

◆金型：車載用モータコアの受注急増により受注高、売上高ともに大幅増加。一方利益面は、増収効果が寄与する一方で急激な増産対応による外注加工費の増加、海外向け物流費等の増加の影響を受け、売上増加幅に比し小幅な増益。

◆機工計測：工作機械等システム商品の緩やかな市況回復を受け、受注高・売上高は前年同期を上回るも、収益面では部材調達コストの増加、子会社の事業縮小等の影響を受け、前期に続いて営業損失を計上。

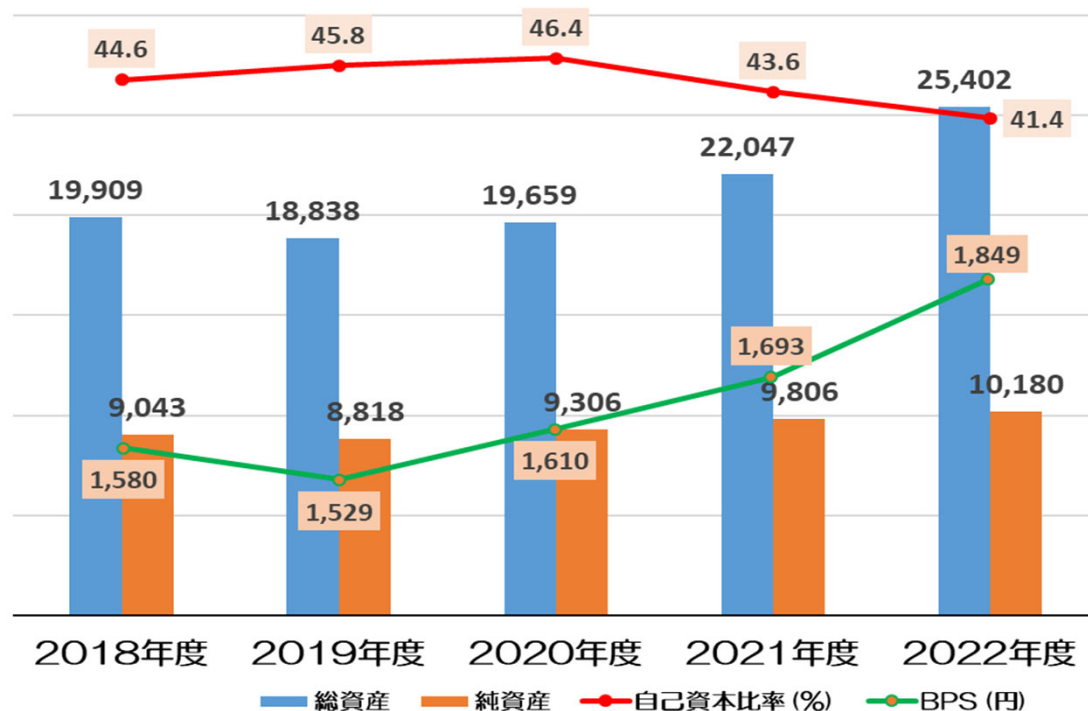


## 前年同期比 連結当期純利益の変動要因



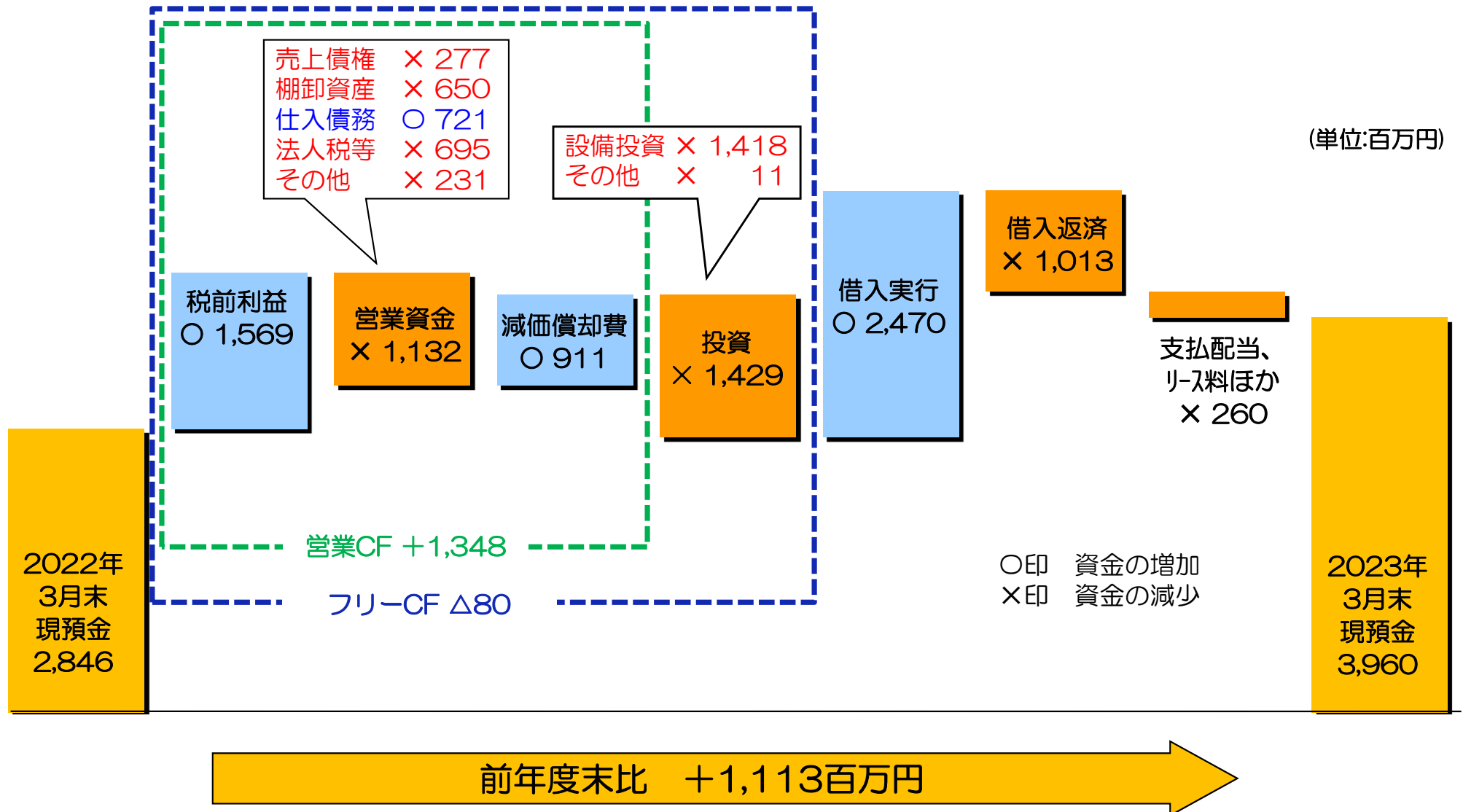
# 連結貸借対照表

	2021年度 (2022年3月期)	2022年度 (2023年3月期)	増減
総資産 (百万円)	22,047	25,402	+3,355
純資産 (百万円)	9,806	10,730	+923
負債合計額 (百万円)	12,241	14,672	+2,431
自己資本比率 (%)	43.6	41.4	△2.2 P
1株あたり純資産(BPS) (円)	1,693	1,849	+155



- ◆ 総資産：前年度末比+3,355百万円の増加  
⇒ 流動資産+2,638百万円（現預金、棚卸資産の増加等）  
固定資産+ 716百万円（建設仮勘定の増加等）
- ◆ 純資産：前年度末比+923百万円の増加  
⇒ 株主資本+ 782百万円（利益剰余金の増加等）
- ◆ 負債合計額：前年度末比+2,431百万円の増加  
⇒ 流動負債+2,301百万円（短期借入金の増加等）  
固定負債+ 129百万円（退職給付に係る負債の増加）
- ◆ 自己資本比率：41.4% 前年度末比△2.2P

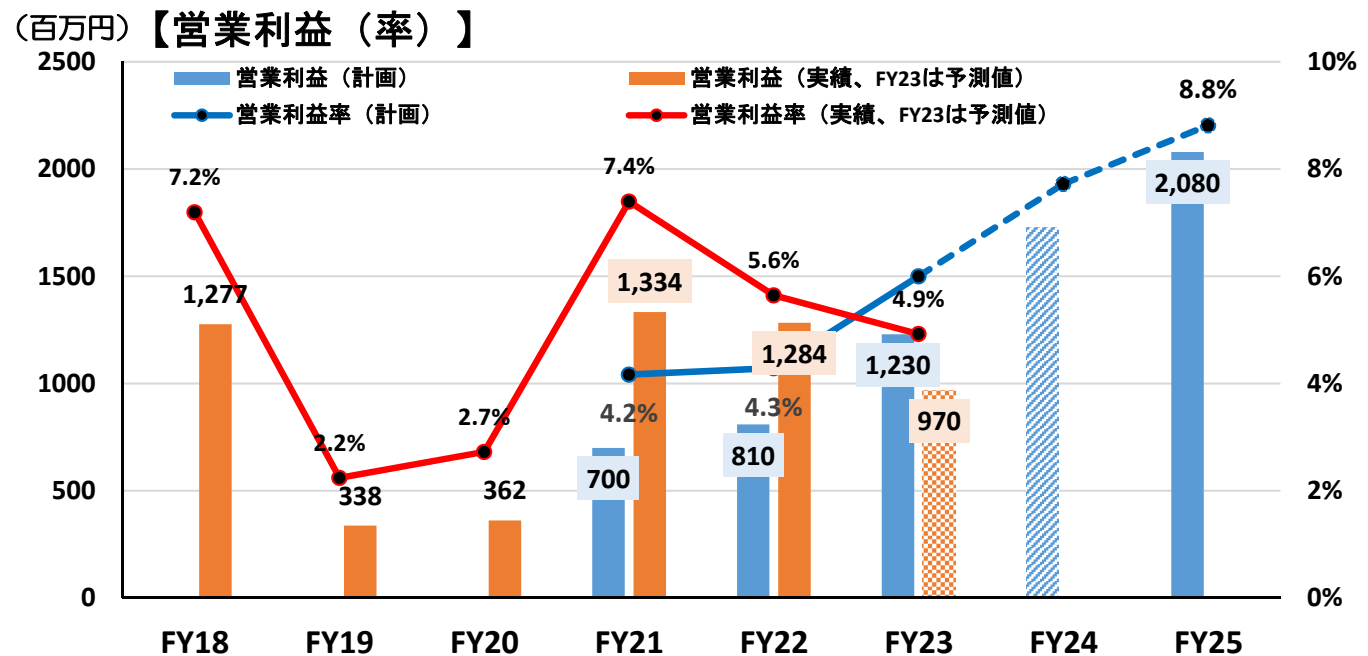
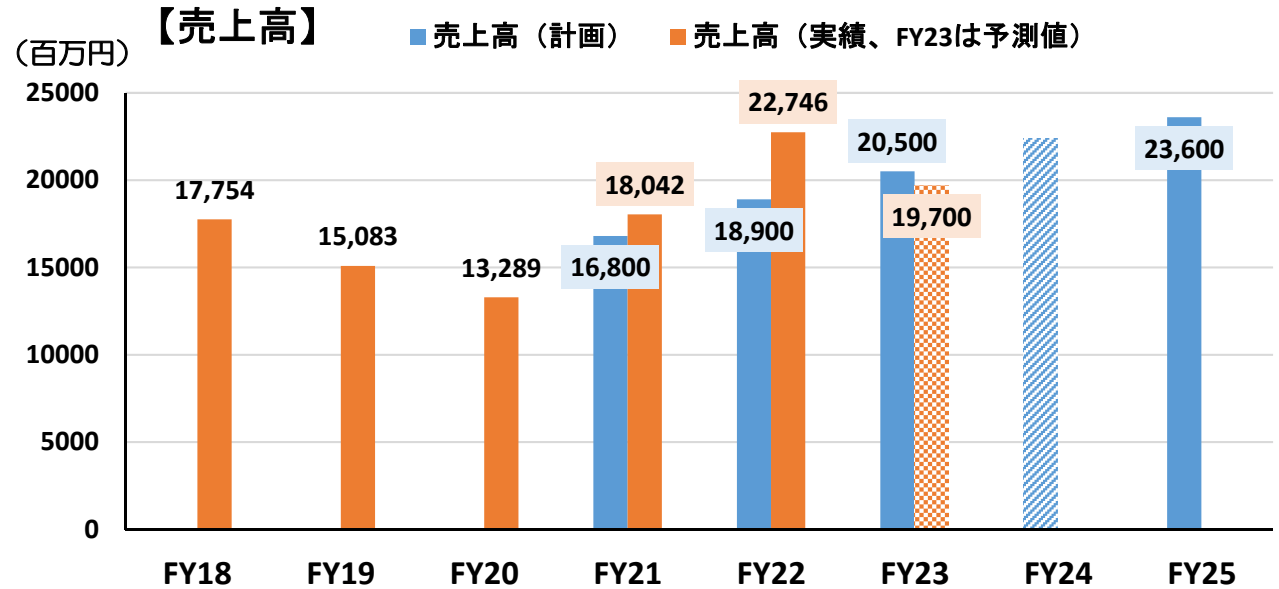
## 前年度末比 連結キャッシュ・フローの変動要因



# 中期計画 (Vision2025) の進捗状況 ①

## 連結 売上高／営業利益

	項目	中計FY22	FY22実績
全社	売上高	18,900	22,746
	営業利益	810	1,284
	営業利益率	4.3%	5.6%
駆動	売上高	7,610	8,966
	営業利益	460	1,030
	営業利益率	6.0%	11.5%
金型	売上高	6,700	9,798
	営業利益	180	366
	営業利益率	2.7%	3.7%
機工計測	売上高	4,670	3,999
	営業利益	210	△81
	営業利益率	4.5%	—



## 【経営指標】

Vision 2025		2023年3月期 連結実績	判定
売上高	168億円～230億円	227億円	◎
営業利益率	4%超～8%	5.6%	○
ROE	5%超～10%	9.0%	○
自己資本比率	45%以上	41.4%	×
配当性向	25%～35%	25.1% (配当40円/1株)	○
総投資額	計画期間 (5年) 中 73億円程度の規模	2021年度～2022年度 累積投資額 約25億円	○

### 3. 2024年3月期通期連結業績予想、配当予想

単位：百万円、%	2022年度 (2023年3月期)	2023年度 (2024年3月期)	前期比増減	増減率
売上高	22,746	19,700	△3,046	△13.4%
営業利益	1,284	970	△314	△24.5%
(営業利益率)	5.6%	4.9%	△0.7P	—
経常利益	1,533	870	△663	△43.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	906	560	△346	△38.2%

◆ 駆動システム商品の主要顧客である半導体市場向けを中心に国内／海外ともに受注の低迷が続いていること、特定顧客向けモーターコア商品の生産調整が必要なことに加え、減価償却費・物流費・電力費等のコスト上昇圧力があることから、2023年度の連結業績は、売上高 19,700百万円、営業利益970百万円、経常利益870百万円、親会社株主に帰属する当期純利益560百万円を見込む。

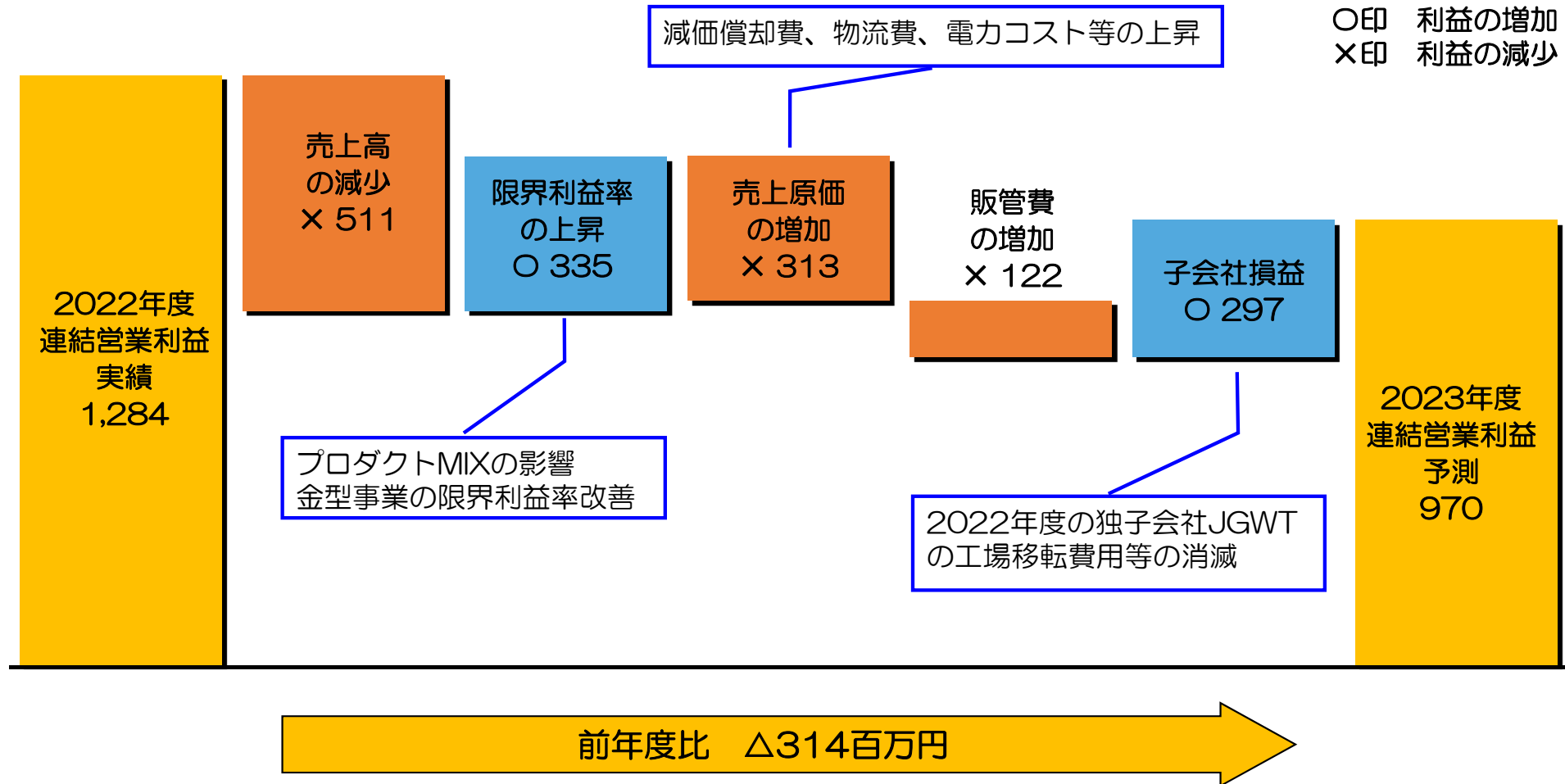


# 2023年度連結営業利益（予測）の増減要因

## 2023年度 連結営業利益の増減要因

(単位：百万円)

○印 利益の増加  
×印 利益の減少



減価償却費、物流費、電力コスト等の上昇

プロダクトMIXの影響  
金型事業の限界利益率改善

2022年度の独子会社JGWT  
の工場移転費用等の消滅

## セグメント

## 見通し、計画

### 駆動システム事業

	22年度実績	23年度予想
売上高	8,966	8,100
営業利益	1,030	500
営業利益率	11.5%	6.2%

- ◆ 年度内は主要顧客の半導体製造装置向け市場で生産調整・在庫調整が継続し、減収減益を見込む。
- ◆ 今年度終盤から来年度以降に予想される需要回復期の増産に柔軟に対応出来る生産体制を整えるため、自動化生産ラインの拡充等に向けた設備投資を順次実施していく計画。

### 金型システム事業

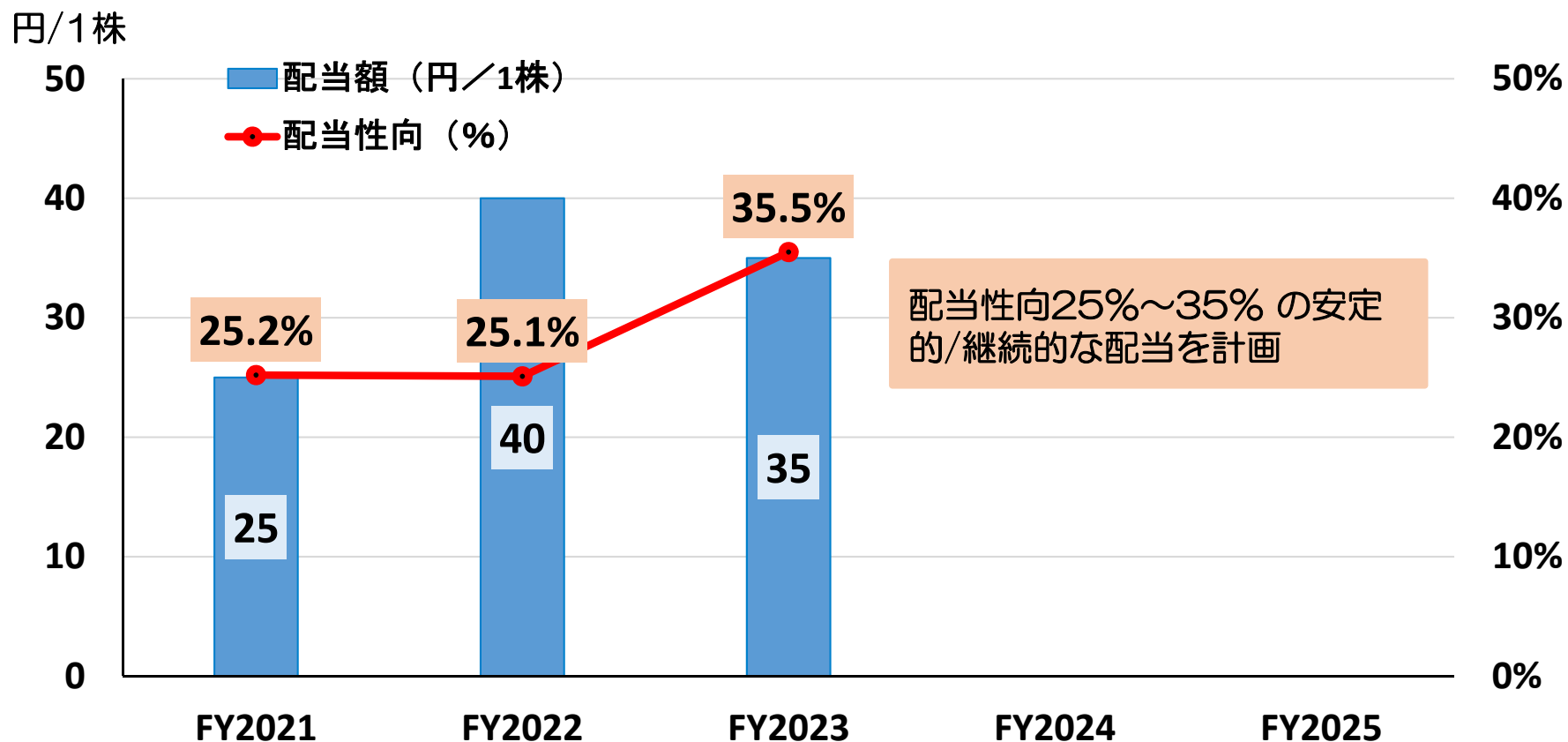
	22年度実績	23年度予想
売上高	9,798	7,400
営業利益	366	370
営業利益率	3.7%	5.0%

- ◆ 主力の車載用モーターコア金型は、前期に引き続き好調な需要を維持する一方、特定顧客の生産調整等によりモーターコア製品の売上高は一時的に伸び悩みが予想される。
- ◆ 今期中に長野工場へのプレス設備増設を伴う拡張工事が完了。その後も車載用モーターコア金型の更なる増産体制構築のため、必要な設備投資を順次実施していく計画。
- ◆ ただし、増産体制構築完了までは一時的に外注コスト等の増加が発生。また、減価償却費の増加に加え、電力費・物流費等のコストが高止まりし、業績に影響を及ぼす懸念。

### 機工計測システム事業

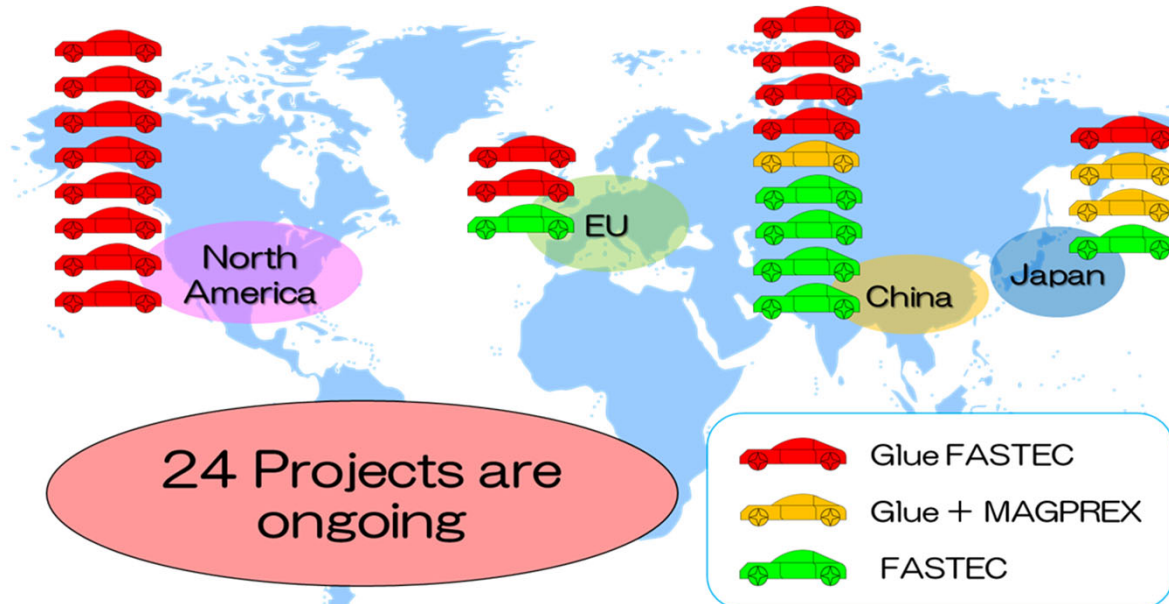
	22年度実績	23年度予想
売上高	3,999	4,200
営業利益	△ 81	100
営業利益率	—	2.4%

- ◆ 工作機械、要素機器ともに需要は緩やかに回復の傾向が続いており、新市場の開拓努力と併せて、受注高は回復が見込める。
- ◆ 海外の販売・サービス網の強化、自動化設備や産業用ロボット分野など国内外の新市場の更なる開拓・深耕を計画。
- ◆ 一部の部材調達コストの上昇と、電力費・物流費等が高止まりすることにより、業績に影響を及ぼす懸念。



- ◆ 当社の配当政策は、企業体質強化のための内部留保の充実を図りつつ、業績に裏付けられた安定的な配当を継続して行うことを基本方針としております。現行中期経営計画Vision2025の期間中は、配当性向25~35%の範囲内で、収益状況や経営環境を考慮し、都度適切な配当を実施していく所存です。
- ◆ 2023年度の年間配当金は、1株当たり35円00銭を予定しております。

## 【金型】 ◆ 拡大する金型／モーターコア需要に対応するグローバルな供給能力の拡充



益々拡大する車載用モーターコアの需要に応えるため、当社では長野工場内に第8工場と倉庫棟を増設しモーターコア専用の大型プレスラインと磁石の樹脂固着システムMAGPREX®を増設（2022年度着工、2023年度中に稼働開始）するほか、ユーログループ（伊）、無錫隆盛新能源科技（中）の海外提携先に於いても工場の拡張とモーターコア生産ラインの増設を実施又は実施中であり、当社では提携先に供給するGlue Fastec®を中心とした積層プレス金型の生産能力増強に向けて必要な設備投資を順次実施する計画です。

## 【駆動】 ◆ 低発塵クリーンアクチュエータ「SCシリーズ」販売開始

高精度高剛性に加えクリーンクラス3（ISO14644-1）に対応する低発塵性を実現したクリーンアクチュエータ「SCシリーズ」の販売を開始。U字形のガイドレールの中にスライドロッドを配置した低断面構造によりコンパクト化も図っています。電子機器の製造、医療検査、食品製造といった高いクリーン度が求められる環境下での使用に最適の商品です。



## ◆ ドイツ子会社JGWT 新工場への移転完了



2023年3月、ドイツの子会社 JGWT の新工場が完成し移転を完了、無事操業を開始しました。空調効率を大幅に改善するとともに、木造の構造物を用いるなど、環境に配慮した新工場は、レイアウトや動線も効率的に配置されており、更なる生産性の向上を図ってまいります。

## 【機工計測】 ◆ JIMTOF2022に出展



2022年11月、4年ぶりにリアル開催されたJIMTOF2022（第31回日本国際工作機械見本市）に「KURODA Smart Machines, Smart Future」をテーマに出展。自社製ボールねじを3軸搭載した平面研削盤GS-126CVの展示や、ハイドロリックツールのユーザー様との相互展示などにより、多くの引き合いに繋がりました。また、参考出展したロータリー研削盤は、商社・ユーザー様から発売を期待される声が数多く寄せられ、非常に有効な意見収集ができました。



## ◆ 新たなソリューションへの取り組み

右の写真は主に2022年度下期に当事業部が取り組んだ事例の紹介です。左上から右下に向けて「ロボット搬送対応マンドレル」「研削盤特殊対応機」「オプションの一部にトポロジー設計を取り入れた大型研削盤」「硬貨用金型スーパーポリシングマシン」「セラミクスプレート用平面度測定装置」等、多様な装置の製作と納入が行われました。また、コロナ禍に於ける行動制限が緩和され、評価テストや立会い等でMMラボにお見えになるお客様も約100件を数え、ラボ運用開始後最高水準の来場者数を記録しました。



ロボット搬送対応  
ハイドロリックマンドレル



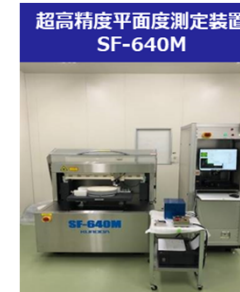
平面研削盤特殊仕様  
GS-64PF II (4台口)



トポロジー設計可傾チャック  
GS-126CV



スーパーポリシングマシン  
KRP-2200FW



超高精度平面度測定装置  
SF-640M

- ◆ 当資料は、投資家の皆さまに黒田精工株式会社への理解を深めて頂く事を目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。
- ◆ 当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
- ◆ 当資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠することなく、ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

黒田精工株式会社 経営企画室 IR担当

TEL：044 - 555 - 3800

ホームページ：<https://www.kuroda-precision.co.jp>